



The 6th Midterm Business Report



Contents

株主の皆様へ2

トップインタビュー3

財務ハイライト5

財務諸表7

会社の概況・株式情報9

Ohhhhhhh!



わっ!!と言わせるコンテンツを創造し、発信し続ける会社です。

アミューズメント事業

パチンコ・パチスロの人気機種やカジノゲームなどを、携帯電話で再現。とことん遊べる楽しいコンテンツを企画・開発。実物にも劣らない興奮をお届けしています。

サウンド コミュニケーション事業

着信メロディや、カラオケなど「音」で遊べるコンテンツを展開。中には、高音質や動画にこだわったサイトも。目でも耳でも楽しめる、新しい携帯生活が始まります。

エンタテインメント事業etc.,

eコマースサイトなどを企画し、携帯コンテンツで展開している、エンタテインメント事業。eパブリッシング事業、海外事業とともに、様々な楽しさを発信しています。

株主の皆様へ

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。

第6期中間期(2004年4月1日から2004年9月30日まで)の事業報告にあたりまして、ここに謹んでご挨拶申し上げます。

アミューズメント事業におきましては、当社の親会社でありますサミー株式会社製パチスロ機「北斗の拳」の大ヒットにより、携帯電話向けパチスロ・パチンコゲームコンテンツサイト「サミー777タウン」の会員数が大幅に増加いたしました。また、NTTドコモの第3世代携帯電話FOMA(フォーマ)に向けたコンテンツも投入し、会員数が順調に伸びております。

サウンドコミュニケーション事業におきましては、携帯電話向け着信メロディコンテンツサイト「プラチナメロディ」において、「着リフ」というメジャー楽曲の「さび」の部分を取り出した着うたや、着信メロディと映像を融合させた「プラチナムービー」といったコーナー展開を積極的に実施してまいりました。また、既存サービスであります、メールに着信メロディを添付できる「メールにメロディ♪」において、J-POPを利用できる「メールにメロディ♪J-POP」を業界初でサービスを開始いたしました。

エンタテインメント事業におきましては、PC・携帯電話向け通販サイトが、サミーのパチスロ・パチンコ関連商品のアイテムを充実した結果、売上が順調に推移いたしました。また、海外展開につきましては、急成長する中国の携帯電話市場に向けたコンテンツの事業展開を目的として、2004年4月、北京に現地法人を設立いたしました。

以上の結果、当中間期は、売上高29億44百万円(前年同期比99%増)、経常利益11億55百万円(同210%増)、中間純利益6億73百万円(同264%増)となりました。

通期事業計画につきましては、既存サービスのなおいっそうの充実・拡大、新サービスの投入、第3世代端末向けのコンテンツサービスや携帯電話にとらわれない他プラットフォーム向けのサービス展開に注力し、売上高60億28百万円(同82%増)、経常利益20億円(同160%増)、当期純利益11億60百万円(同212%増)を目指してまいります。

また、日頃よりご支援いただいております株主の皆様への還元策と流動性の向上及び投資家層の拡大を目的に2004年11月30日を基準日として、2005年1月20日に当社普通株式1株を3株に分割(無償交付)することを発表いたしました。

なお、第6期配当につきましては、1株につき2,500円の期末配当の実施を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2004年12月

To Our Shareholders



代表取締役社長

大野政昭

トップインタビュー

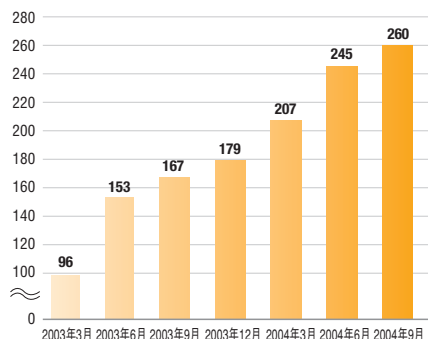
今年9月に東証マザーズに上場を果たした、サミーネットワークス。

活力あるベンチャー精神を忘れず、さらなる成長を視野に入れたビジネスに取り組む大野社長にお話を伺いました。

その先にある“感動や楽しさ”をいつも追求することこそ、 ビジネスの醍醐味です

有料コンテンツの会員数

(単位：万人)



—東証マザーズ上場に込めた社長のお考えをお聞かせください。

大野 インターネット対応の携帯電話が急速に普及し、ネットワーク環境が文字どおり人々の手の中にまで入り込んできました。私たちはその潮流を先んじて捉え、2000年3月、ネットワークを利用して感動や楽しさを人々の手に届けたという熱い思いを胸に会社を設立しました。

以来、携帯電話への音楽・ゲーム関連のコンテンツ配信を中心にお陰さまで発展をとげ、このたび東証マザーズに上場することができました。しかし当社にとって株式上場は決してゴールではありません。それは、あくまでも将来の大きな夢に到達するための重要な手段の一つと捉えています。

このほど株式上場という大きな社会的基盤を得たことで、当社はさらに大きく飛躍することが可能になりました。今後は次のステップの目標実現を視野に入れ、成長を続けていく所存です。

—次のステップを視野に入れた、今後の経営戦略についてお聞かせください。

大野 ユーザー数という母体を維持・発展させつつ、コンテンツの付加価値を高め、利用者の平均利用単価を引き上げることを、次のステップとして位置づけています。そのための戦略は三つあります。一つはコンテンツの拡大と強化です。人々の興味の対象は著しい時代の変化も伴い無尽蔵になっていると言っても良いでしょう。そのため、コンテンツ内容にはあらゆる可能性が考えられます。既存のサービス内容を充実させ、加えて映像情報・eコマースなどにもジャンルを広げて新しい価値を創造し、ユーザーの期待に応える高品質なコンテンツの提供を目指します。

二つ目は、マルチプラットフォーム対応です。ユビキタス社会の到来により、携帯電話、パソコン、家庭用ゲーム機、カーナビゲーション等のIT環境はすでに整いつつあります。ユーザーの皆様には「いつでも、どこでも」当社のコンテンツをお楽しみいただけるよう、各種プラットフォームへの展開を図っていきます。

三つ目は、海外展開です。今年4月に子会社を設立したこれからの巨大市場と言われる中国への進出を皮切りに、欧米市場も視野に入れ検討を進めています。海外進出の際には、現地インフラの整備状況や国民気質などを慎重に見極める必要がありますが、進出時期と展開コンテンツの内容を吟味して、積極的に進めていきたいと考えています。

——ITの進化とサマーネットワークスが追求する「感動や楽しさ」は、今後どのように融合していくとお考えですか。

大野 技術革新が進むほど、より高品質・高付加価値のコンテンツを開発・配信できるという点から、利便性と娯楽性の両者を融合させ、私たちはこれからも常に前向きな取組みを行っていきます。例えば、携帯電話の一機能であった呼出音に着信メロディを起用できたことで、その人にとってある種の感動をもたらす音に変化し、それが多くの人々に支持されました。その後、携帯電話の進化とともに様々なコンテンツへと発展し、新しい感動と新しい価値を創り出せるようになりました。また、今後計画している「音のプラットフォーム展開」もまさに私たちの音に対するこだわりと、最新技術の融合と言って良いでしょう。電化製品や時計、玩具などに内蔵された専用チップに、携帯電話を使ってWebサイトからダウンロードした音楽を転送。身近に氾濫している機能的なだけの電子音をカスタマイズ可能な音楽に変えることができます。様々な生活シーンに合わせた思い入れのある音に囲まれる気持ちのいい生活、音のプラットフォーム展開はそんな未来型のライフスタイルを提案します。こうした取組みは、これからのサウンドコミュニケーション事業として強調したい点です。

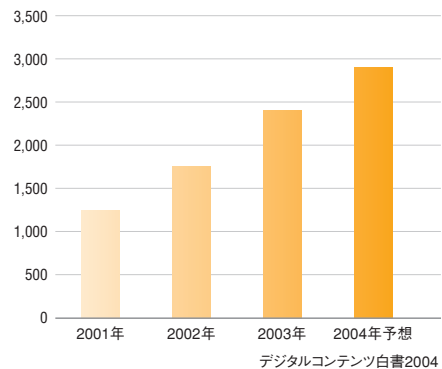
——着実な成長をとげる実行力の源は何であるとお考えですか？

大野 当社の資産は、何と言っても優秀な人材を確保していることです。社員一人ひとりが企画・開発力に溢れ、お互いに高い目的意識を共有していることが、成長の源泉であると考えています。優秀な人材という太い柱が多ければ多いほど、高く業容を積み増しすることが可能になるので、今後とも人材の育成、採用には最善を尽くしたいと考えています。

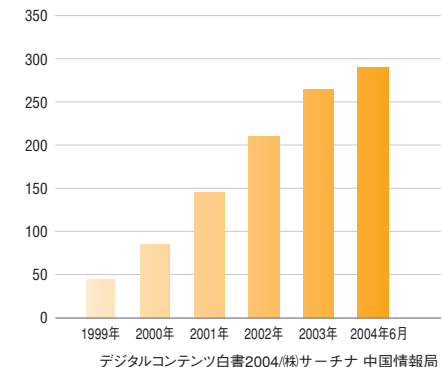
——大野社長から、株主様へのメッセージをお願いします。

大野 当社は創業当初から「負けない経営」を目指しています。すなわちベンチャー企業にありがちな事業拡大にのみに固執することなく、常に黒字を出し続けることにこだわりを持って取り組んでいます。着実な事業の拡大とそれに伴う毎期の決算、配当まで責任を持って良い結果を出すことこそが、経営者としての使命であると確信しているのです。株価は様々な要因が関わり流動的なものですが、配当は利益に応じて的確に行うことができますので、これをもって株主の皆様のご支援に厚く報いたいと考えています。「ネットワークでつながるあらゆるデバイスを通じて、様々なコンテンツにより多くの皆様に感動や楽しさを提供し続ける」という企業理念のもと、社員一丸となって「志、高く」努力を続けてまいりますので、ご期待いただきたいと思います。

モバイルコンテンツ市場予測 (単位：億円)

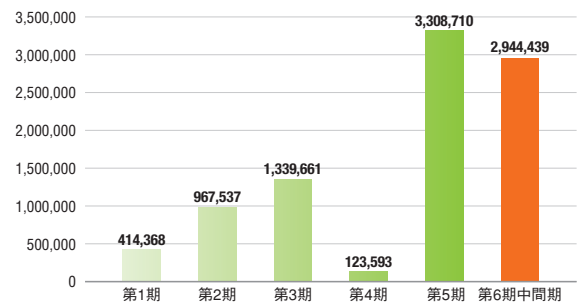


中国市場 携帯電話加入者推移 (単位：百万人)

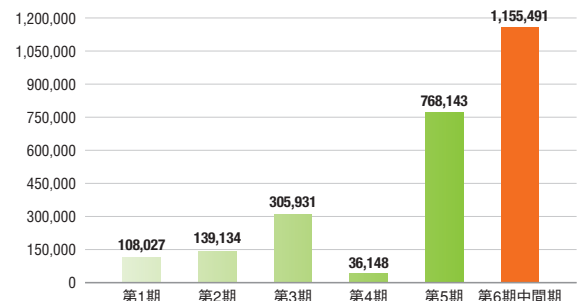


財務ハイライト

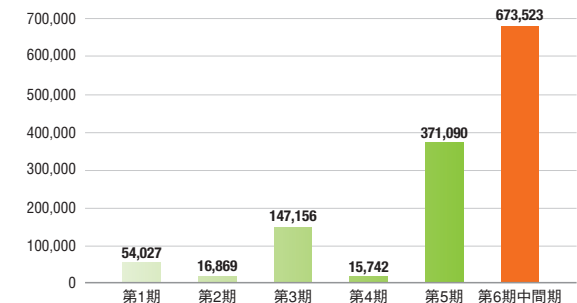
売上高 ■ 中間期 ■ 通期 (単位: 千円)



経常利益 ■ 中間期 ■ 通期 (単位: 千円)



当期純利益 ■ 中間期 ■ 通期 (単位: 千円)



(注) 第4期につきましては、決算期を変更したため1ヶ月間となっております。

セグメント情報

アミューズメント事業

アミューズメント事業におきましては、主力コンテンツであるサミー株式会社(当社親会社)の販売するパチンコ・パチスロ実機を携帯電話向けのゲームとして提供する「サミー777タウン」シリーズにて、高品質アプリゲームの定期的投入はもちろんのこと、アプリゲーム以外のムービーや実機攻略法等の情報系コンテンツの拡充、NTTドコモのFOMA®やボーダフォンの3G端末への本格的対応、さらに従来の105円・315円コースに加え、525円コースを投入したことにより順調に推移しています。

この結果、アミューズメント事業の売上高は21億68百万円となりました。

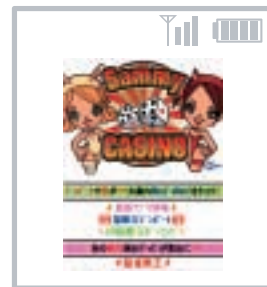
主なコンテンツサービス



©Sammy / Sammy NetWorks

サミー777タウン

サミーグループのパチンコ・パチスロ実機のゲーム、着信メロディ、各種情報、ムービー等がダウンロードできます。



©Sammy / Sammy NetWorks

サミーカジノタウン

サミーグループの人気キャラクターを使用したスロットマシン、ルーレット、麻雀等のゲームアプリがダウンロードできます。

サウンドコミュニケーション事業

サウンドコミュニケーション事業に関しては、主力コンテンツである「プラチナメロディ」シリーズにて、クリエイターが原曲のイメージを崩さず、こだわりぬいて制作した高音質着信メロディを多数投入し、また、着信メロディと動画を融合させた「プラチナムービー」や楽曲のさびの部分を取り出して着うたにした「着リフ」等のコーナー展開に、「こだわり」をキーワードに展開してきましたが、大幅な会員の増強までにはいたりませんでした。

また、メールに音楽を添付することができる「メールにメロディ」シリーズでは、従来の105円コースに加え、業界初となるJ-POPを利用できる「メールにメロディ J-POP」を315円コースとして投入し、新たにOCNのPC向けに「メロディメール」をサービス開始しました。この結果、サウンドコミュニケーション事業の売上高は5億70百万円となりました。

主なコンテンツサービス



©BANDAI NETWORKS & Sammy NetWorks

プラチナメロディ

プラチナメロディは、着信メロディや音と映像を自由に組み合わせることができるプラチナムービー等をダウンロードできます。

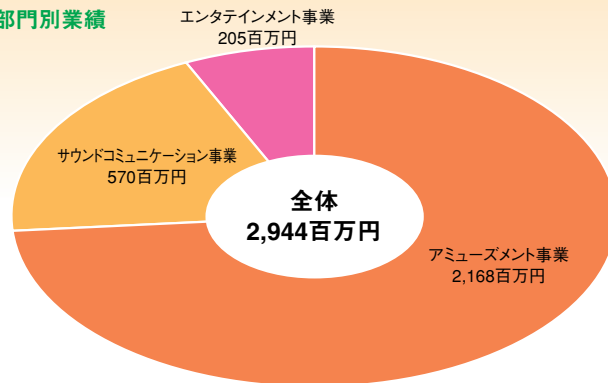


©BANDAI NETWORKS & Sammy NetWorks

メールにメロディ

メールにメロディ シリーズは、メールにアニメーションとメロディを同時に添付できるサービスです。

部門別業績



エンタテインメント事業

エンタテインメント事業に関しては、従来からのeコマースサイト「グッズSHOPサミー(携帯電話向け)」シリーズ・「サミーダイレクト」にて、サミー株式会社の販売するパチンコ・パチスロ実機のキャラクターを使用した、Zippoライター、携帯ストラップ等のオリジナル商品のラインナップを充実させ、展開してきました。

また、携帯電話向けマンガ配信サイト「モバイルコミック」や情報系eコマースサイト「blythemobile」を新たにサービス開始しました。

この結果、エンタテインメント事業の売上高は2億5百万円となりました。

主なコンテンツサービス



© Sammy NetWorks

eコマース

PC向けECサイト「サミーダイレクト」及び携帯電話向けECサイト「グッズSHOPサミー」は、サミーグループのパチンコ・パチスロ機、ゲームのキャラクターを利用したオリジナルグッズ等を販売しているオンラインショップです。



©Sammy NetWorks

財務諸表

中間貸借対照表

Non-Consolidated Balance Sheets

(単位：千円)

科目	当中間期	前期
	(2004年9月30日現在)	(2004年3月31日現在)
●資産の部		
流動資産	7,440,702	1,700,858
現金及び預金	5,698,564	571,679
売掛金	1,674,255	1,068,696
商品	3,216	2,729
前払費用	2,357	1,619
繰延税金資産	59,156	49,543
その他	3,152	6,588
固定資産	326,178	297,731
有形固定資産	16,286	12,437
無形固定資産	45,019	54,965
投資その他の資産	264,871	230,328
資産合計	7,766,880	1,998,589

科目	当中間期	前期
	(2004年9月30日現在)	(2004年3月31日現在)
●負債の部		
流動負債	1,357,095	1,047,608
買掛金	558,815	514,411
未払金	164,460	43,771
未払費用	4,236	98
未払法人税等	519,224	413,235
未払消費税等	59,695	32,238
預り金	8,303	11,516
賞与引当金	42,360	32,337
固定負債	32,768	24,080
負債合計	1,389,863	1,071,688
●資本の部		
資本金	2,246,125	206,125
資本剰余金	2,890,659	94,659
利益剰余金	1,188,277	576,028
利益準備金	2,885	2,885
中間(当期)未処分利益	1,185,391	573,142
その他有価証券評価差額金	51,955	50,087
資本合計	6,377,017	926,900
負債・資本合計	7,766,880	1,998,589

■資産の部

当中間期末の総資産は77億66百万円であり、前期末に比べ57億68百万円増加いたしました。その主な要因は、2004年9月に行った公募増資による現金及び預金の増加、また、売上の増加に伴う現金及び預金並びに営業債権の増加であります。

■負債の部

総負債は13億89百万円であり、前期に比べ3億18百万円増加いたしました。主な要因は、第2四半期に行ったプロモーションや市場関連費用の発生に伴う一時的な営業債務の増加、収益の増加に伴う未払法人税等の増加等であります。正味運転資本(流動資産から流動負債を控除した金額)は、60億83百万円であり、流動比率は548.3%(前年度162.4%)で財務の健全性は保たれております。

■資本の部

自己資本は、63億77百万円であり、前期末に比べ54億50百万円増加し、自己資本比率は82.1%(前年度46.4%)となっております。

Non-Consolidated Financial Statements

中間損益計算書

Non-Consolidated Statements of Income

(単位：千円)

科目	当中間期	前 期
	(2004年4月 1日から 2004年9月30日まで)	(2003年4月 1日から 2004年3月31日まで)
売上高	2,944,439	3,308,710
売上原価	1,069,001	1,703,053
売上総利益	1,875,437	1,605,657
販売費及び一般管理費	664,922	836,630
営業利益	1,210,515	769,027
営業外収益	152	49
営業外費用	55,176	933
経常利益	1,155,491	768,143
特別損失	—	23,410
税引前中間(当期)純利益	1,155,491	744,732
法人税、住民税及び事業税	504,342	513,800
法人税等調整額	△ 22,374	△ 140,157
中間(当期)純利益	673,523	371,090
前期繰越利益	511,867	202,052
中間(当期)当期末処分利益	1,185,391	573,142

■中間損益計算書

当中間期の業績は、「サミー777タウン」シリーズの順調な会員増等により売上高29億44百万円となりました。また、売上増に伴う固定費の圧縮が図られ、経常利益11億55百万円、中間純利益6億73百万円となりました。

中間キャッシュ・フロー計算書

Non-Consolidated Statements of Cash Flows

(単位：千円)

科目	当中間期	前 期
	(2004年4月 1日から 2004年9月30日まで)	(2003年4月 1日から 2004年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	391,268	612,672
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 67,379	△ 383,818
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,802,995	148,784
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増加額	5,126,884	377,638
現金及び現金同等物の期首残高	571,679	194,041
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	5,698,564	571,679

■営業活動によるキャッシュ・フロー

当中間期において、営業活動の結果得られた増加資金の主な要因は、11億55百万円の税引前中間純利益を確保できたこととあります。一方で、6億5百万円の売上債権の増加や、4億10百万円の法人税等の支払は営業キャッシュ・フローの減少の要因となりましたが、未払金は1億27百万円増加し、営業キャッシュ・フロー増加の要因となりました。

■投資活動によるキャッシュ・フロー

当中間期において、投資活動の結果使用した資金は主に、ソフトウェア等の無形固定資産45百万円の取得によるものであります。

■財務活動によるキャッシュ・フロー

当中間期において、財務活動の結果得られた資金は主に、公募増資により調達した48億36百万円によるものであります。

会社の概況・株式情報

会社概要

(2004年9月30日現在)

会社名	株式会社サミーネットワークス Sammy NetWorks Co., Ltd.
本社所在地	〒108-0073 東京都港区三田1-10-4 日新ビル3F
設立	2000年3月1日
資本金	22億46百万円
事業内容	携帯電話、インターネットPC、家庭用ゲーム端末機 への音楽関連コンテンツ及び、ゲーム関連コンテ ンツの配信サービス
監査法人	あずさ監査法人
従業員数	39名

役員	取締役会長	里見治
	代表取締役社長	大野政昭
	常務取締役	鶴谷誠
	取締役	佐藤信邦
		倉垣英男
		新谷省二
		吉田賢吉
	常勤監査役	青木民男
	監査役	榎本峰夫
		吉澤秀男

株式情報

株式の状況

会社が発行する株式の総数	40,000株
発行済株式の総数	14,310株
株主数	1,026名

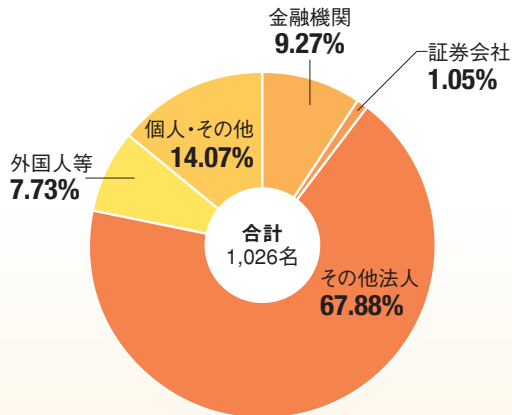
※2004年10月28日開催の取締役会決議により、2004年11月30日を基準として、
2005年1月20日に当社普通株式1株を3株に分割（無償交付）いたします。

大株主

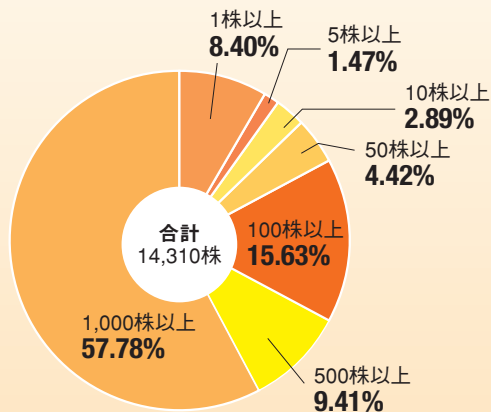
氏名又は名称	持株数(株)	議決権比率(%)
サミー株式会社	8,268	57.78
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	725	5.07
ピーイーエフフォーフィデリティージャパンモールカンパニーファンド	621	4.34
バンダイネットワークス株式会社	440	3.07
野村信託銀行株式会社(投信口)	407	2.84
株式会社ドコモ・ドットコム	280	1.96
メロンバンクトリートクライアーツオムニバス	240	1.68
株式会社インデックス	200	1.40
株式会社サイバーエージェント	180	1.26
大野政昭	160	1.12

株式分布状況

(2004年9月30日現在)



所有者別分布状況



所有株数別分布状況

サミーネットワークス
インターネットホームページのご案内

当社では、企業情報や株主、投資家情報を発信するホームページを運営しております。

最新のIR情報をお知らせするIRメール配信のご登録もできますので、是非一度ご覧ください。




URL <http://www.sammy-net.jp>

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
配当金交付株主確定日	3月31日
基準日	3月31日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して、基準日を定めることがあります。
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱所	東京都江東区東砂七丁目10番11号（〒137-8081） UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 03-5683-5111（代表）
同取次所	UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞
1単元の株式の数	—

株式の各種手続き用紙（届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、株券喪失登録、単元未済株式買取請求書、名義書換請求書等）の請求につきましては、上記名義書換代理人にて、お電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。

 **0120-232-711**（本店証券代行部）

インターネットアドレス <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引の証券会社にお問い合わせください。



〒108-0073 東京都港区三田1-10-4 日新ビル3F

TEL : 03-5730-0171

URL <http://www.sammy-net.jp>



中間事業報告書は、環境保全のため、古紙100%再生紙を使用し、大豆油インクで印刷しています。